

## 教員のおすすめ本

学長 北村 公一先生

### マンガ 日本の歴史

石ノ森章太郎著

中央公論社 1989-1993 発行

高校生の頃、「世界史」「日本史」という歴史が嫌いでした。というか、人物名や年号、場所などを覚えるのが苦手。『なんで過去に起こったこと、それも何百年も前の事象を年号や人物も含めて覚えなければならないんだ！』『それより今を知り、これからのことを考えるほうがいいではないか！』そう思うと素直に学習に取り組めませんでした。

社会人になり20年ほどたち、ふと、自分の子供たちがコツコツ買い集め本棚に並んでいた「日本の歴史」という漫画（最近アニメというのでしょうか）を手に取り読んでみると夢中になりました。年号や人物名などはどうでもいい、その時（その時代）の出来事の流れが自然に頭の中に入ってくるではないか。覚えるのではなくその時代の人々の暮らしや様子が浮かんできて、映画を見ているような気分になりました。

歴史は今の積み重ねです。その先に未来があります。今の自分の行動や今の日本や世界の在り方を思うときに、歴史の流れがあって今があると考え、歴史を学ぶことって大切なことなんだと思い知らされました。年号や人物名を覚えることより流れを感じることの面白さを知りました。一度、歴史漫画を読み漁りませんか……。きっと今の自分、今の社会について何かを感じるはずですよ。



全48巻（後に現代篇7巻が追加され全55巻）  
※書影は文庫新装版の第1巻



こども教育学部 棚澤 令子先生

### セルフケアの道具箱

伊藤絵美 著；細川貂々 イラスト

晶文社 2020/07 発行

ストレスがたまっていて苦しい、人間関係で疲弊している、先行きが不安で眠れない……。そう感じる人が2020年前後のコロナ感染症拡大により、増加しました。そんな不安や苦しさを、自分自身で上手にケアすること。その技がこの本に詰まっています。心理学を専門とする私も、ストレスマネジメントの講義をする際には、この本の著者伊藤絵美先生の本を参考にしています。しかーし！心配ご無用。堅苦しい専門書ではなく、なんだか癒される絵もたくさん使われていて、とても和みます。自分のストレス対処方法の引き出しを増やしてみたいかがでしょうか。

## 教員のおすすめ本

こども教育学部 根本 徹先生

### 法隆寺を支えた木 (NHKブックス)

西岡常一, 小原二郎 著

日本放送出版協会 1978/6 発行

世の中には「職人芸」を、いくつもの分野でみることができます。

この本は、「職人芸」が、マニュアルではなく、経験知と「木を見る眼」、「心眼」に支えられているのだと思います。そうした意味で、教育や保育、看護の道にも通じる著作であると確信しています。

著者の西岡さんは、寺院建築の大工：宮大工の棟梁です。小原さんは農学博士でありながら、建築学の専門家でもあります。西岡さんの匠の技を、小原さんが裏打ちし、わが国最古の木造建築物であり、世界遺産でもある法隆寺の再建を支えた「職人芸」の奥底にあるものの見方や考え方の素晴らしさを伝えてくれます。

特に、驚きなのは、法隆寺に利用されているヒノキの木材は、千年もの樹齢で、建築に利用されてから、さらに千年「生きる」というお話です。そのヒノキを、如何に寺院の建築に利用するのか。その一つの教えの口伝が『木を買わず山を買え』なのだそうです。

この名作は、平成当初、中学国語で部分採用されました。本学の図書館であなたを待ちわびています。



看護学部 青山 美紀子先生

### 自分とか、ないから。

教養としての東洋哲学

しんめいP 著

サンクチュアリ出版 2024/04 発行



「本を読まない人のための出版社」のサンクチュアリ【聖域】なので、囁かし心豊かになるような選書かと期待しながら、ハズレは無く笑いながら読みました。

日々の生活の中で、感じることや小さな悩みごとを、誰もが得る経験値を踏まえた内容として書いてあるので、無意識な感性で素直にとらえることができます。誰もが知っている7人の偉人「ブッダ」「龍樹」「老子と莊子」「達磨」「親鸞」「空海」の哲学を身近な言葉でわかりやすく説明しているので、自分自身に当てはめて考える中で、ポジティブシンキングが芽生えてくるから不思議でした。「東洋哲学」の教養が身に付くかも？です。

看護学部 瀧田 浩平先生

### イラストでわかる シーン別 発達障害の人にはこう見えている

吉濱ツトム 著

秀和システム新社 2023/07 発行



自分が知っている世界とはどこがちがう気がする。どうして？なぜ？どんな風にこの世界をみているのだろうか？という興味関心から、発達障がいの方たちの見る世界、とらえ方に関する書籍をいくつか読み、最近この本に手が伸びました。この本は発達障がいの方たちの見え方、感じ方が視覚的に分かりやすく当事者の視点から描かれているため、「あ、そういうことだったのか」と新たな気づきや理解を深めるきっかけを得ることができると思います。知るともっと他の場面も知りたくなる、あっという間に読み進むそんな一冊です。



こども教育学部 3年生 小林 桃花さん

### どうぞのいす

香山美子 作；柿本幸造 絵

ひさかたチャイルド 1981/11 発行

私がおすすめするのは『どうぞのいす』（作 香山美子）という本です。この絵本は、思いやりや「ゆずりあい」の心をやさしく伝えてくれる絵本だと思っています。ウサギが作った“どうぞのいす”に、通りがかった動物たちが少しずつ物を置いていく、という簡単な流れではありますが、その中でも他の動物のことを考えて他のものを置いていくという、他人を思いやる心をいだけるとても素敵な作品だと思っています。

動物同士の温かな思いやりの連鎖で物語が進むため、子どもでも無理なく“思いやりが違う人へまた違う人へ繋がっていく”という感覚を得られるのがとても大きな魅力だと思っています。また、内容はシンプル故の繰り返しのリズムがあり、子どもたちと共に楽しみながら読めるというのもおすすめできるポイントのひとつです。ぜひ、図書館にある1冊を手にとってみてください。



※書影は文庫版

こども教育学部 3年生 滝澤 優季さん

### クララとお日さま

カズオ・イシグロ 著；土屋政雄 訳

早川書房 2021/03 発行

私がおすすめする本は、カズオ・イシグロ著『クララとお日さま』です。この作品は、人工知能を搭載したロボットであるクララと、病気がちな少女ジョジーとの関係を中心に描かれています。特別鋭い観察力を持つクララは、ジョジーや家族、周囲の人々との関わりを通して様々な感情に触れ、成長していきます。ジョジーに元気になって欲しいというクララの一途な思いに心を動かされ、周囲の人々の考え方も変わっていきます。また、物語をロボットであるクララの視点から読むことで、友情や家族の在り方、人間らしさとは何かを考えさせてくれる作品です。

## 司書のおすすめ本



図書館司書 松村 みわさん

### かわいい江戸の絵画史 第2版

金子信久 監修 エクスナレッジ 2023/9 発行

大学2年の時、希望の講義が満員で受けられず、友人の誘いで日本美術史を履修しました。それまで興味がなかったのですが、講義で紹介された江戸時代の動物画のモフモフ感・ゆるさにすっかり魅了されてしまいました。この本はそんな江戸絵画が載っています。おすすめは円山応挙と長澤蘆雪の作品です。子犬の絵が有名で、コロンとした姿や仕草がかわいいです。猫派の私ですが蘆雪の『菊花子犬図（116ページ〜）』はいつ見ても癒されます。他に猫やスズメ、人間の絵もあります。解説に手法など書かれていますが、絵を眺めるだけでも楽しい本です。

## 図書館からのお知らせ ～冬の長期貸出～

対象期間に借りると、いつもより長めに利用できます！

### 【対象期間（貸出日）】

- ・学生：12/10（水）～12/24（水）
- ・学生[実習]：11/26（水）～12/12（金）
- ・教員：11/24（月）～12/12（金）

### 【返却日】

▶ すべて 2026年1月13日（火）

図書館サイト



## 図書館カレンダー

### 2025年12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

### 2026年1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

□ 8:30～20:00    ■ 9:00～17:00  
■ 10:00～17:00    ■ 休館日

開館日・開館時間は変更になる場合があります。最新のカレンダーはQRコードから

